

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立泉中学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒921-8036
金沢市弥生1丁目26番1号

E-mail izumi-j@kanazawa-city.ed.jp

Website http://cms.kanazawa-city.ed.jp/izumi-j/

幼児児童生徒数 男子 210名 女子 208名 合計 418名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校では、総合的な学習の時間（以下IT）を中心に学習を進めている。ITは3年間で6期に分け、各学習テーマにしたがって、継続的・計画的に実施している。中でも体験学習や探究活動を積極的に取り入れ、自然環境や社会との「関わり」「つながり」を重視し、持続発展可能な社会の担い手の育成を目指している。

ア I期 自然とともに

現代の自然環境について「水」「生き物」「エネルギー」「森林」「食」の5つのテーマ別に分かれ、自分の課題を設定した。この課題解決に向け、関連施設を訪問し、見学、職員へのインタビューを行った。生徒は環境に関する問題解決に向けた実際的な取組やその方向性を深く理解することができた。学習の成果を新聞形式でまとめ、掲示発表を行った。

イ II期 金沢を知ろう

1年生は、ふるさと学習のスタートとして、「伝統芸能」について各自が調べ、クラス発表を行った。また、伝統芸能体験として「加賀万歳」を体験・見学し、地域で育まれてきた芸能についての理解を深めることができた。

2年生は、伝統工芸体験を取り入れた市内班別自主研修を行った。生徒自

らテーマに沿った課題解決のための見学地を決定し、班ごとに協力して計画を立て、インタビューや見学を実施した。この研修の成果をスライドにまとめ、発表会を行った。これにより金沢の文化的景観や伝統工芸などを知ることができ、金沢の魅力の再発見につながった。

ウ Ⅲ期 人とともに

キャリア体験の事前学習として社会で活躍する職業人を招いての講演会を行い、地域密着型や世界で幅広く活躍する職業人の考えに触れることで、職業観や勤労観を高めた。キャリア体験当日はとまどいながらも、地域で働く人々とふれあい、地域社会の営みについて知ることができた。また、自分の進路を考える上でよい機会となった。学習成果はレポートにまとめ、掲示し全体で共有した。

エ Ⅳ期 日本を知ろう

2年生はⅡ期で学んだ金沢の文化・伝統工芸・まちなみなどと比較しながら、視野を広げ、日本の伝統を色濃く残す京都や日本の商都大阪について学習した。そして、修学旅行での見学候補地や企業についての調査を行い、それをもとに京都班別自主研修のモデルプランを作成した。

3年生は修学旅行において、前年度作成したモデルプランを活かした京都班別研修を皮切りに、京都、大阪、奈良を回った。学習内容は旅行記という形でまとめた。2泊3日の旅行を通して、現代に残る日本独自の文化、伝統に直接ふれ、金沢との比較を多角的に行って、考察を深めることができた。

オ Ⅴ期 世界を知ろう

国際理解講座としてアメリカ・イギリス・フランス・ベルギー・中国・韓国の6カ国の方々を講師として招き、Ⅳ期の学習テーマであった「食文化」「まちなみ・歴史」「伝統工芸」「伝統芸能」について各国の事情を学んだ。日本では受け入れられている伝統の継承について、伝統に固執しない国があることに驚きを持つと共に、世界の多様性についての興味関心を深めることができた。

カ Ⅵ期 社会とともに

3年間「ともに生きる」という視点で学んできたITの学習の集大成として、交流拠点都市を目指す金沢について考えた。金沢がさらなる魅力を獲得するためには何が必要なのか、市政でも取り上げられている「まちづくり」「ひとづくり」「ものづくり」「環境づくり」「絆づくり」「魅力づくり」「くらしづくり」をテーマに各グループで検討し、金沢市への提言という形で発表した。発表は授業参観の日に学級ごとに実施し、多数の保護者の方にも参観していただいた。

キ 生徒会活動

本校の生徒会は、「つながりプロジェクト」として、つながりを大切にした活動を継続的に行っている。

校区内の3校（泉中学校、泉小学校、中村町小学校）の児童・生徒会の委

員や役員が一堂に会する「i P Sサミット(izumi Pupil Student summit)」を通して共同での活動と呼びかけ、「ボトルキャップの回収」「ベルマーク運動」「あいさつ運動」等を行ってきた。また、小学校での「泉中読みきかせ隊」による絵本の読み聞かせ活動や英語の絵本の読み聞かせを通して、小学校との交流を進めている。世界へのつながりでは、「Smile Africa Project」「届けよう 服のチカラ」プロジェクトなどを行い、自分達にできることから行動することを目指している。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育(GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ユネスコスクール ESD 優良実践事例集

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

本校では、ユネスコスクールの活動を総合的な学習の時間に行っている。3年間で6期に分け、各学習テーマにしたがって指導計画を作成している。地域の伝統文化についての理解が深まるように教育課程の中に取り入れている。また、生徒会では、ペットボトルキャップの回収やスマイルアフリカでいらなくなった靴を発展途上国に送ることで、環境・国際理解に関する活動も行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

学校全体として取り組めるために、生徒会がペットボトルキャップ回収ボックスや靴回収ボックスを玄関前に設置してある。生徒全員に気づいてもらえる場所に置くことで、継続的に活動できるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

本校のユネスコスクールの活動分野は環境・国際理解・伝統文化の3つであるので、生徒全員が3つの分野に関しての多面的な考え方や未来を創造する力がついているかを評価すべきである。ユネスコスクールとして浸透具合が低い活動があるので、全校生徒に活動内容が伝わり、取り組んでもらうことが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

ユネスコスクールこどもサミットにおいて、活動内容を他校の生徒の前で発表している。発表準備をする上で、教師も生徒も本校の活動内容を振り返るきっかけになった。また、他校の取組を知ることで、本校の活動と比較して足りない部分を把握し、新しい考え方を知るよい機会となった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

伝統文化に関する活動では、加賀万歳を鑑賞するために、加賀万歳保存会の方達に公演していただく機会を設けた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

ユネスコスクールこどもサミットで金沢市内の中学校と交流することができた。ペットボトルキャップの回収は、同じ地区の小学校と合同の取組であるが、国外のユネスコスクールとの交流は行ってない。国外とのネットワークを形成し、国際理解を深めていくなどの取組が必要であると考えている。

- ⑧ ユネスコスクール活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

生徒会がユネスコスクールとしての取り組みを全校で発表することで、総合的な学習の時間とESDの繋がりを再認識することができた。

（3）平成30年度の活動計画

道徳の授業で、オリンピック・パラリンピック関係の資料を用いて、国際理解・文化多様性・平和について考える機会を設けていくことを計画している。